



花の下に

花の下にて









結局、西行妖は
満開にはなりませんでした



それが何者だったのか
私達を知る事出来なかったのです



確かに桜の木の下には
誰かがいたのですが



人であり人でない

あの禍々しい影は
何だったのでしょうか
桜が見せた春の幻?



あら紫



紫様

幽々子は
いるかしら?



ト
ン



さっしやいませ



さっしやいませ



今年は珍しく
色々な人が
来たけれど

何か物足りない
思ったら
紫だったのね

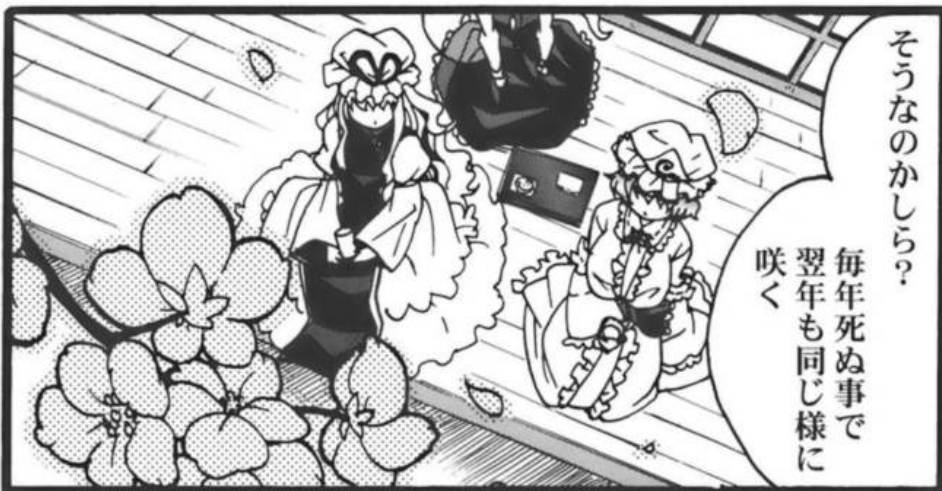
あなたとはもう
何百回も同じ桜を
見てきたもの



今年は来るのが
遅かったわねえ



あなたが春を
集めたりする
からよ



そうなのかしら？

毎年死ぬ事で
翌年も同じ様に
咲く



いえ
同じではないわ
幽々子

私もあなたも
あの桜も
毎年少しずつ違う



刹那にして永遠

だからこそ
美しい

詩的ね



空腹は満たしてくれないけれどね

あの



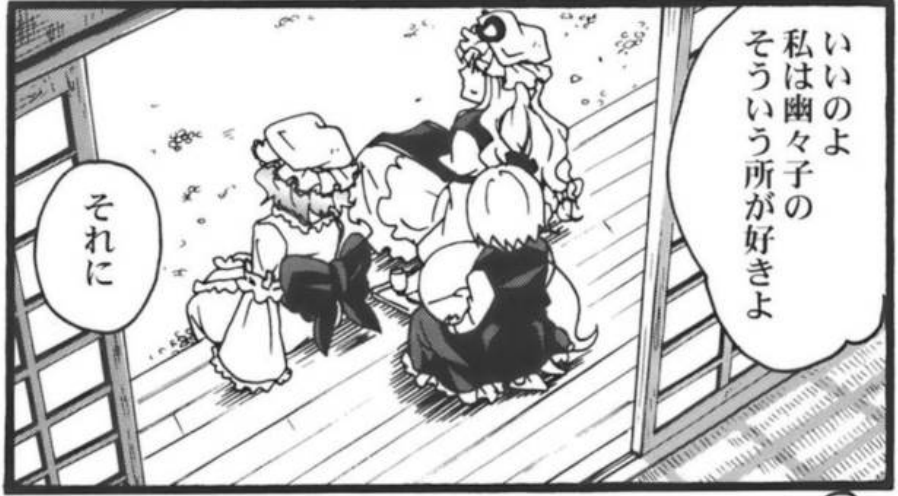
お二人はいつ頃からの知り合いなんですか？

それはもう妖夢の生まれるずっと前いつなのか忘れたけどね



昔の事覚えてないって幽々子さま……それでいいんですか？

いいのよ私は幽々子のそういう所が好きよ



それに

こう永く生きていると色々ありすぎるのよ



そうよそうよ

それでも私達は友達だし、最近は何事が多すぎて目が回っちゃうわ



そういうものなのでしょうか？

大切な人に忘れられるなんて私なら悲しいです



そう思うのは私がまだ子供だからでしょうか？





私が冬眠している間に
大変な事が
起こっていたのね

ええ

あの巫女の
せいですよ



結界を壊す事は
出来ても
貼り直す事が
出来ないなんて



ちよつと
いいかしら？

あ
はい



ちよつと春を
借りただけなのに
冥界は酷い有様です



二代目の
庭師でありながら

……



どうして幽々子を
止めなかったの？

あなた本当は
幽々子の事……



私は幽々子さまの
従者です

幽々子さまが春を
お望みならば私は
春を集めるまでです

まさかこの子
妖忌から
何も聞いていない？

それがあの人の
意思ならば
私が口を出す
事ではない

そう
それならいいわ

あなたには
あなたの立場が
あったわね

?





そんなわけで

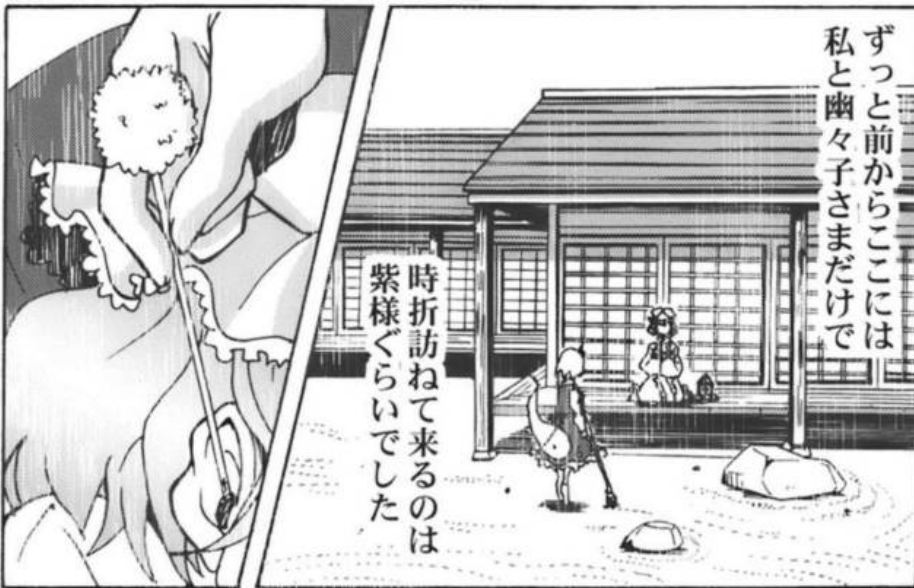
待ちなさいッ！
お前たちったら
何度言っても！

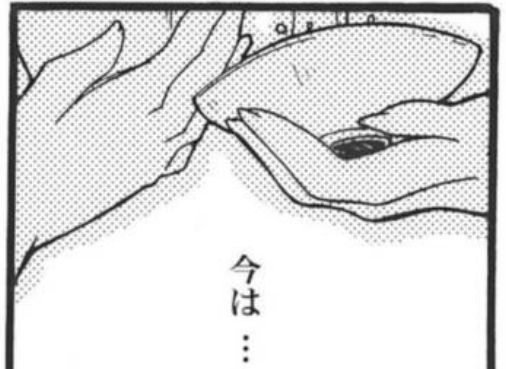
花見の季節も
終わろうというのに
私は大忙しです

そっちに行っちゃ
駄目だってば！

あら半死体
遊びにきたわよ









うーん
私とした事が
酔い潰れるなんて



ん…



霊体と言っても
重さはあるの
ですから…

よろじょと



こんな所で
寝ると
風邪引きますよ
幽々子さま





私だけの幽々子さま
だったのに

私は
幽々子さまだけの
ものだったのに…



「それがお前の役目だ」

「幽々子さまを
いつも側でお守りするんだぞ」



「大切なものを守る程、己に負けぬ程に強くなれ」



「はい
お師匠様！」



私の半分を…
受け入れてください！



私には…



私には幽々子さましか
いないのに！



ん…
よーむ？

私、幽々子さまと
ひとつになりたいです



半分でもいいの？
いいのよ
全部入れても



あなたの半分くらい
全部飲み干してしまうわ
きつと



私は
空っぽだから



あっ

おん
おん





は、あ...

幽々子さまの体
とつても
やわらかいですうッ

はあ、

あ、

あ、

あ、

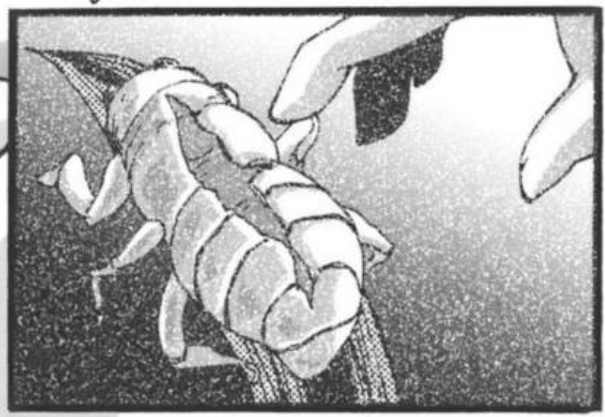
私の体には...
本当は
何も無いのに
空っぽなのに



幼子が
蟬の抜け殻を
弄ぶ様に…



抜け殻なのよ…



だから…
私は…いつも…

は



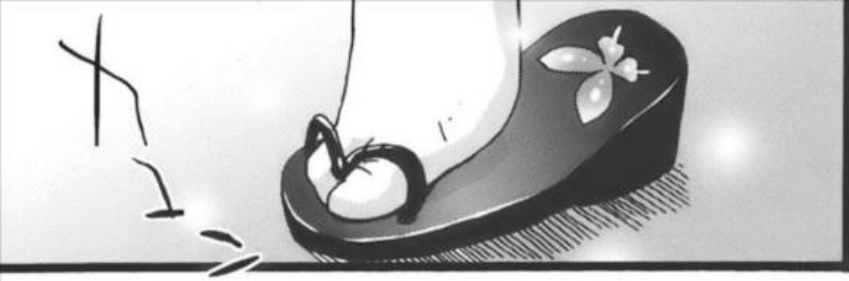
ん…



満たされたいのよ

あ…





何の事かしら
お酒の勢いは
怖いのかしらね？

そうやって
いつもあなたは
とほけてばかり



あの子たち
いい子ね

妖夢の友人に
なつてくれると
いいのだけれど



煙に巻くのが
得意なのは
お互い様でしょ

そうね
いい関係だわ



妖忌も今の様な
幻想郷だったら
ずっと私の側に
いてくれた？



その問いは無意味よ
幽々子
あなたらしくもない

そうね
わかっているわ



今を生きてる

それが私だもの





残ったのは
前と同じ苦しみ



幽々子さまは永遠

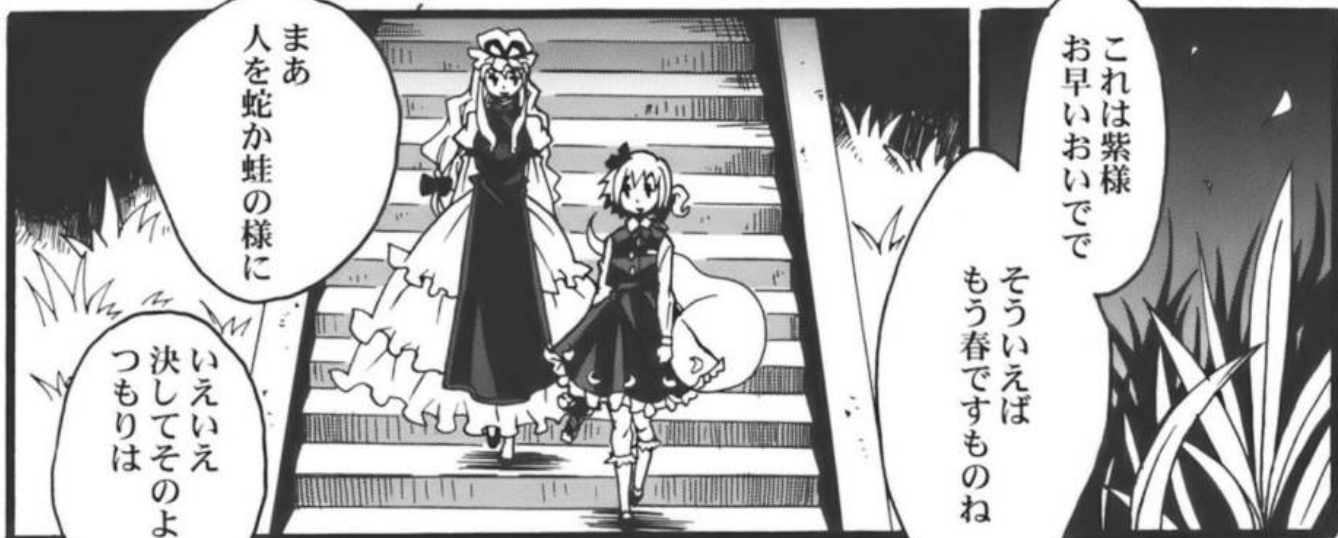
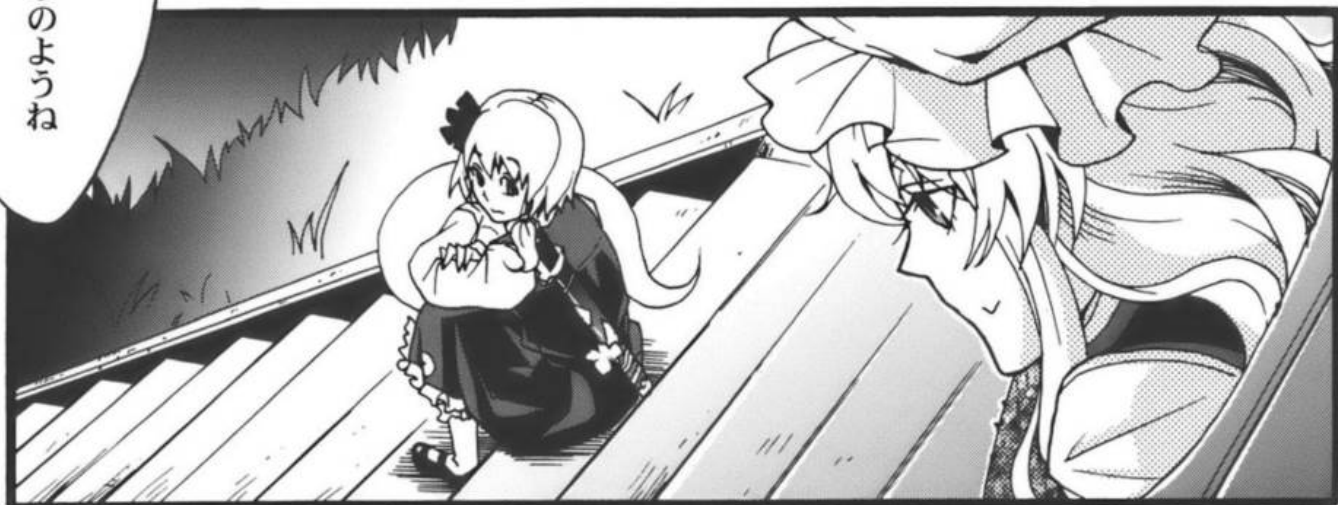
私など
本当にひとつには
なれないのに



私はこれからどうすればいいの？
こんな狭い世界に二人きりで



お悩みのようね

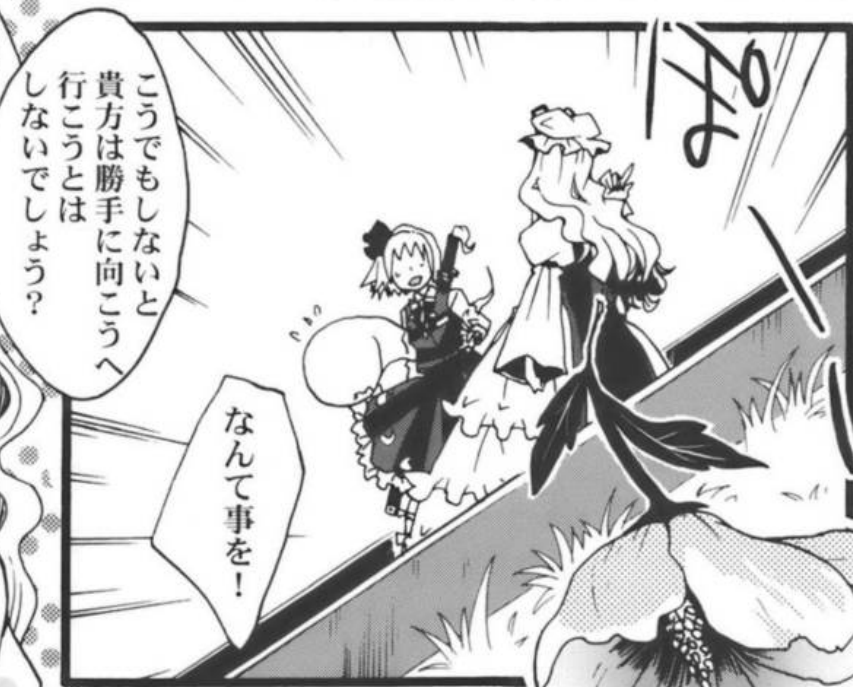
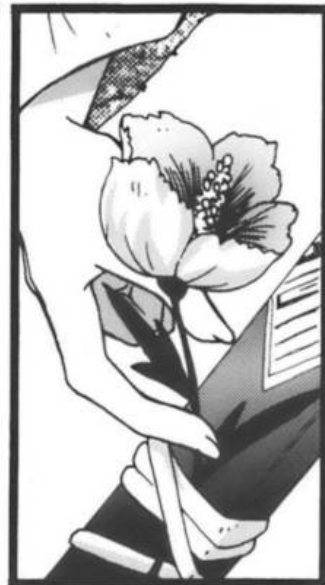


これは紫様
お早いおいでで

そういえば
もう春ですものね

まあ
人を蛇か蛙の様に

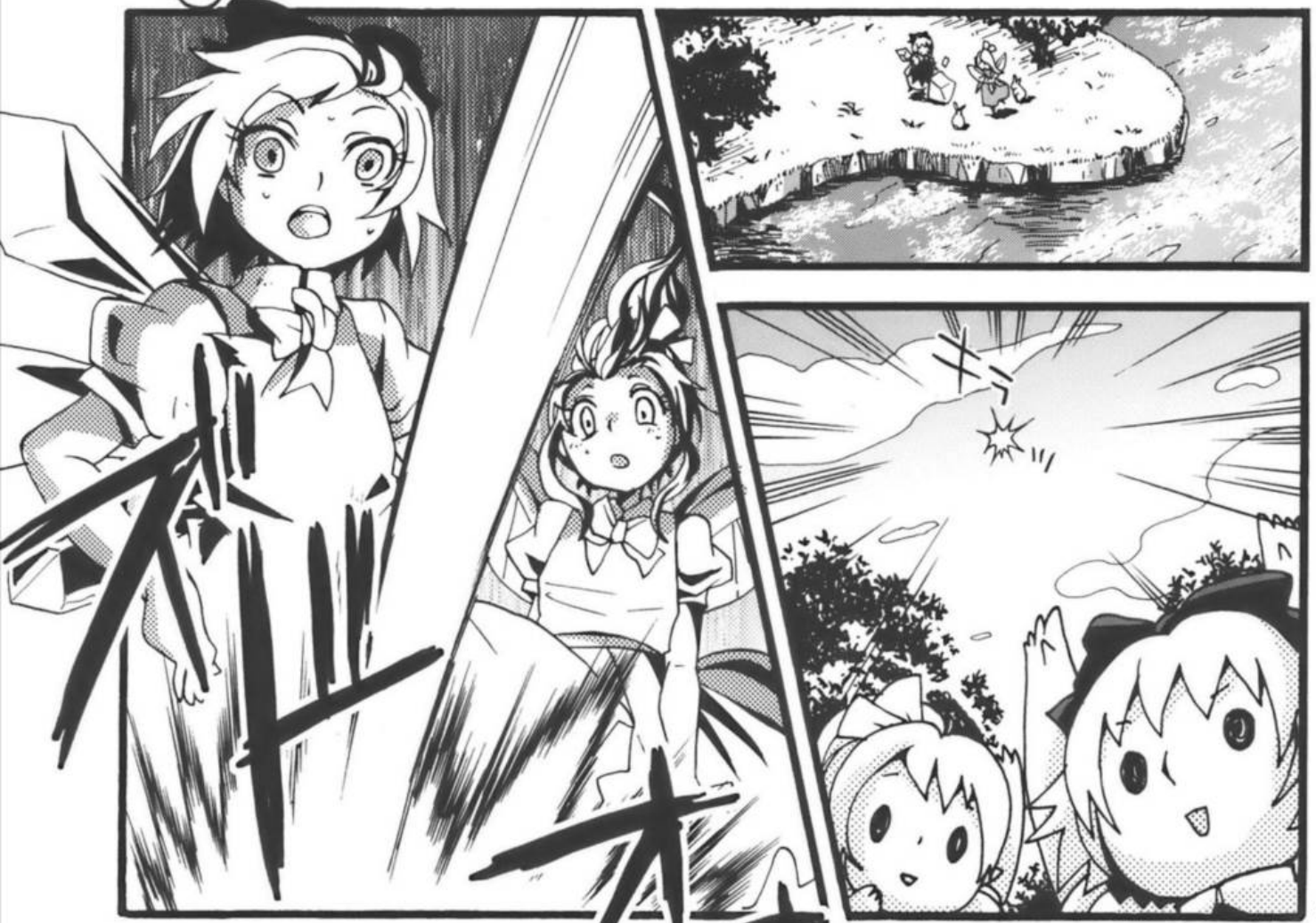
いえいえ
決してそのような
つもりは





確かに
そうですが

何もここまで
しなくてもッ!





そのような事ばかりしていると
おせつかい妖怪という
二つ名がつかますよ

別に私は
そんなつもり
ではないわ



あの子の成長は
必要不可欠なのよ



一見不可解だけでも
冥界が
安定し続けるには…



私やあの方を
拾ったのだから
世話焼きで…



ああ人はそれを
おせっかいと言うのです



いーつー
かーらー



あっあっ
痛いです
紫さまあ



お前は
そんな口をきける
身分になったの
かしら？

私は本当の事を
言ったままです



うわーん



わかってるわよ
そんな事…

本当は私が一番寂しがり屋だって



こんにちは、江口と申します。この本は、幽々子は西行さんの娘じゃなくて、実は西行さんの××だったという妄想から出発した本ですが、消化不良で何故か紫オチとなりました。あれ〜？みょんゆゆのねちょ百合具合とか、妖夢の成長の余地とか、幽々子が自分の存在に不安を抱いてひたすら無抵抗に全てを飲み込んでいくとか、紫のエゴとか色々ぶち込んだら着地失敗した模様です。これに更に幽々子紫妖忌の三角関係ねちょを加える予定を実行していたら更に收拾がつかなくなっていた予感。妖夢幽々子紫の三角関係も今回激しく萌える事に気がつきました。同性同士の友情と愛情がもつれたり勘違いしたりする三角関係が大好きです。ひとまず妖夢と私の余裕の無さを、魔法のおっぱいを持つ幽々子さまに「余裕が無いのね」って言われる事が出来たので良しとしよう。

花
の
下
に
て

発行日：2010年5月4日
発行：ジッパーリスト
<http://zipper.client.jp/>
breastripper@mail.goo.ne.jp

印刷：くりえい社

*この本は上海アリス幻楽団様制作の東方projectを元にした二次創作同人誌です。





20100504
ジッパリスト